

京都

# ケアマネ・ポート

KYOTO CARE MANE PORT

## Contents

- 2 新年のご挨拶
- 3 満員御礼 公益社団法人京都府介護支援専門員会  
平成28年度府民公開講座
- 4 第10回日本介護支援専門員協会全国大会in北海道
- 5 第5回京都府介護支援専門員研究大会
- 6 公益社団法人京都府介護支援専門員会平成28年度ブロック委員総会  
ブロック活動報告 中丹ブロック
- 7 京都市北西ブロック・京都市北東ブロック  
京都市南東ブロック
- 8 事務局からのお知らせ／編集後記



## 新年のご挨拶

公益社団法人 京都府介護支援専門員会 会長 井上 基

京都府介護支援専門員会会員の皆さま、新年明けましておめでとうございます。平素より本会活動に多大なご協力をいただいておりますことに、この場を借りて御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、新年を迎えたところですが、去年は皆さんにとって、どのような年だったでしょうか。

4月の熊本地震では、多くの方が被害にあわれました。犠牲となられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。発災直後より、京都府からも初めてDWAT（災害派遣福祉チーム）が被災地に派遣され、ケアマネジャーもチームの一員として活動を行いました。また、多くの方々に義援金や支援活動費に協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

介護・福祉の現場では、有料老人ホームの介護職員が高齢者を故意に転落させた「川崎老人ホーム連続殺人事件」（2月）や元職員が重度の障害者を襲った「相模原障害者施設殺傷事件」（7月）という非常に痛ましい事件がありました。

一方で、国内外の他の出来事に目を向けると、天皇陛下の生前退位の意思表示、リオデジャネイロ五輪男子400メートルリレーで、個々の選手のタイムでは劣っていた日本がテクニックとチームワークで勝ち取った歴史的な銀メダル、国民的アイドルSMAPの解散騒動、国民投票によるイギリスのEU離脱、アメリカ大統領選でのトランプ氏の逆転勝利など、変わらないと思われていたものの終焉や変化、マスコミや識者が世論の動向を大きく見誤るなど、世の中の既存の価値観が大きく変遷し、混沌としているように思います。

そのような中で、ケアマネジャーは、これからどのような道を進んでいくべきなのでしょう。これからは私たちも、当たり前だと思っていたことが、既に当たり前でなくなっているという経験をするようになるのでしょうか。

ケアマネジャーも時代に合わせて、利用者・家族のニーズの変化に合わせて、そのあり方を変えていかなければなりません。ただしそれでも変わってはいけないところはあるはずです。

ケアマネジャーが変わってはいけないところは、小池都知事の言葉を借りるなら、やはり『利用者ファースト』（利用者主体）であることです。平成30年の診療報酬と介護報酬の同時改定にむけて、これから様々な制度・法が変わっていくことが予想されますが、私たちは職能団体としての意見をしっかりと主張していかなければなりません。その時に、私たちの主張の依拠するところは、『利用者ファースト』（利用者主体）であることを忘れてはいけないと思います。

今年一年、皆さん一人ひとりと、すべてのケアマネジャーにとって良い年となりますようお祈り申し上げます。

## 満員御礼 公益社団法人京都府介護支援専門員会 平成28年度府民公開講座

平成28年11月12日(土) ハートピア京都にて公益社団法人京都府介護支援専門員会平成28年度府民公開講座を開催いたしました。本年度は、認知症と共に生きる母子をテーマにしたドキュメンタリー映画「徘徊～ママリン87歳の夏～」を上映し、当事者(ママリンの実娘)である酒井章子氏にご講演いただきました。府民の皆様にも、認知症を受け入れるとは…、老いとは…、人間とは…、をあらためて考えていただける機会になりました。111名のご参加を得て、盛況のうちに終了することができました。

映画での二人のやりとりは、時に漫才のようで、思わず笑ってしまう場面もあり、例年とは少し違う講座となりました。

日に何度も徘徊しているママリンを見ているうちに、気にかけてくれるようになったコーヒー専門店の店長さんは、助けになればと徘徊しているママリンにコーヒーを飲んで行かないかと声をかけてくれるようになります。また、同じマンションの住人達や食事に行くレストランの店員さんも見守りをしてくれるようになり、都会だからこそその距離感で親子を見守ってくれる人たちはだんだん増えていきます。今では認知症の進行と加齢により、徘徊しなくなったママリンですが、認知症の大変な時期をこのような周囲の支えで乗り切った記録はとても貴重であり、多くの府民やケアマネジャーの皆さんそれぞれに感銘を与えられたのではと自負しています。

京都府は独自に「京都市オレンジプラン」を策定し、平



成29年度はその評価年を迎えます。我々ケアマネジャーも10のアイメッセージが叶うように、支援者の一人として大きな役割を担っています。地域によって事情は異なりますが、徘徊する人を排除するのではなく、あたたかく見守り、地域で支えていくことの必要性をこの映画をきっかけに考え、支援のヒントにさせていただけたのではないのでしょうか。

お越しいただいた府民の皆さまからは「認知症や徘徊へのイメージや見方が広がった」「行く道を見せていただきありがとう」「このような講座を時々やってほしい」「先々の不安を考えるより今を生きる大切さ、まわりの助けのありがたさ、大切さを感じました」などのお声をいただきました。誠にありがとうございました。

— 御 礼 —

当講座の広報にあたり、「ぽーれぽーれ」(公益社団法人認知症の人と家族の会発行/通巻435号)に付録としてちらしを封入していただきました。また、株式会社京都新聞社様に記事を掲載していただきました(11月10日(木)京都新聞朝刊)。京都くらしの安心・安全ネットワーク事務局様より、特殊詐欺防止啓発グッズをご提供いただき、ご参加いただいた府民の皆さまに配布いたしました。ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

(理事 竹中 織恵/副会長 松本 善則)

「徘徊～ママリン 87歳の夏～」

身近な会場で  
上映しませんか？

お問い合わせ  
京都映画センター TEL.075-256-1707



## 第10回日本介護支援専門員協会 全国大会in北海道

平成28年10月15日(土)、16日(日)の2日間、第10回日本介護支援専門員協会全国大会in北海道がロイトン札幌にて開催され、約800名の全国のケアマネジャーが参加しました。



Care Managers, be ambitious! ~介護支援専門員よ大志を抱け!~をテーマに、開会の挨拶として日本介護支援専門員協会鷺見よしみ会長から、「介護支援専門員の活躍がなければ今日の介護保険はなかった。今後は利用者の代弁者としてケースマネジメントから地域マネジメントまで担っていく専門ケアマネジャーの育成を目指していきたい。新たな気づきと精気を養う2日間としたい。」と話がありました。



続いて開催地の北海道介護支援専門員協会村山文彦会長から、今回の全国大会のテーマについて「北海道大学の前身である札幌農学校に赴任していたウィリアム・スミス・クラーク博士が残した有名な言葉(Boys be ambitious ~少年よ大志を抱け~)をケアマネジャーに置き換え、野望とも言える思い(ambitious)を語り合える場としたい」と話がありました。

挨拶に続いて、厚生労働省振興課課長補佐佐藤美雄氏から「地域包括ケアシステムの構築とケアマネジャーの役割」と題して基調講演があり、各地で進められている地域包括ケアシステムの必要性や課題整理総括表・評価表などの活用について講演されました。

その後は、鷺見会長を座長としてシンポジウムが開催されました。シンポジストは北海道大学名誉教授で日本ケアマネジメント学会理事の前沢政次氏、特定非営利活動法人インターライ日本理事の五十嵐智嘉子氏、難病支援ネット北海道代表の伊藤たてお氏、日本介護支援専門員協会中林弘明副会長の4名で、自立支援と公正中立について熱いディスカッションが展開されました。

会場の参加者が一番釘付けになったのは、夕張市長の鈴木直道氏の記念講演です。東京都庁に勤めながら法政大学法学部を卒業、夕張市への派遣や内閣府への出向を経験し、夕張市長選挙に出馬するため都庁を退職。30歳で夕張市長に就任された市長です。地域再生にかける熱い思いをユーモアを交えて話をされ、中でも「少子高齢化・人口減少を考えたとき、夕張市の現状は日本の未来そのものであり夕張市だけの問題ではない。今後夕張市が再生できるかどうかで、これからの日本の歩むべき道が見えてくる」と話されていたことが印象的でした。

1日目の最後は熊本県介護支援専門員協会加來留副会長から熊本地震の際に日本介護支援専門員協会や県と協働し活動を行った報告がありました。改めて災害対策の必要性を考えさせられる内容でした。

その後、会場を移し懇親会が行われ、北海道の美しい海の幸と来年の全国大会開催県の石川県から北陸の美味しいお酒が振る舞われ、有意義な夜となりました。

2日目は研究事例発表会が行われ、医療と介護の連携・ターミナル支援、認知症の人への支援、ケアマネジャーの人材育成と事業所運営の工夫、地域包括ケアシステム及び多職種連携1・2、ケアマネジメントの質の向上の6分科会で約60名のケアマネジャーから発表がありました。その後各分科会座長から報告があり、総評として研究発表のレベルが年々上がってきており、今後も利用者支援と併せてレベルアップを図っていきたいと話がありました。

全国大会の最後は次回開催県の石川県介護支援専門員協会西川昭彦会長へ盾が渡され、大きな拍手とともに閉会となりました。

来年は石川県金沢市で開催されます。皆様も参加されてみてはいかがでしょうか。



(編集委員 中嶋 優)

## 第5回京都府介護支援専門員研究大会

平成28年9月24日(土)、ハートンホテル京都(京都市中京区)にて「人の暮らしを支えるケアマネジメント」をテーマに、第5回京都府介護支援専門員研究大会が開催されました。研究発表をさせていただいた10名の方々に発表後感想をお聞きました。発表者の皆様、お疲れ様でした。(常任理事 堀田 裕)

### ①発表に至るまでで大変だったことや工夫されたことなど

社会福祉法人山彦会山彦居宅介護支援センター 藪内 仁司 氏  
「聞こえない方への相談援助過程で気づいたアセスメントの性質」

- 何度も資料を作り直すことが一苦労だったが資料を作成する度に考えが深まり、発表内容にも興味が深まった。

京都市粟田地域包括支援センター 早崎 元弥 氏  
「閉じこもりからの行動変容に至った過程を振り返る」

- テーマを決める事、規定の時間に伝えたい事をまとめる作業。研究発表のための研修でも学んだがその通りにできない(自分の力不足)難しさがあった。



介護支援事業所西陣南 清水 澄子 氏  
「終末期、住み慣れた家で、家族と一緒に最後まで過ごしていただくための本人家族支援」

- 介護支援専門員として、緩和ケアチームの立ち位置の確認として、改めて振りかえった時、医療と介護のつながりをどこまで深めていけるかが大きな課題となった。緩和ケア医療について再勉強した事は貴重な時間だった。

### ③また研究大会で発表したいと考えていますか

医療法人医仁会老人保健施設白寿 吉田 和子 氏  
「利用者のニーズに添ったサービス事業所の選定～特定事業所集中減算の視点から～」

- 緊張し難いと感じたが、事業所として今後も積極的に研究を重ね、共同研究者としても発表したい。

居宅介護支援事業所はなかつ 橋本 かおり 氏  
「精神障害者の生活を繋ぎ支える支援の一考察」

- 今回の研究はまだ入り口に立ったもので、研究をより深めるという観点からも継続して内容を深めて、機会があれば発表させて頂きたいと思う。

社会福祉法人京都福祉サービス協会小川事務所 阪田 雪絵 氏  
「ケアチームの中での言語聴覚士の役割～「食べる」介助がどう変わったか～」

- 研究したい課題が出てきた時は「仮説を立てる」ことから、また研究をまとめる事も勉強もして、やってみたいと思う。

研究発表へのエントリーをしてみませんか！  
当会では研究発表をサポートする研修も開催しております。

### ②発表終了した今のお気持ちや感想をお聞かせください

社会福祉法人京都福祉サービス協会西七条事務所 北川 純子 氏  
「在宅栄養・食事ケアサポートを中心に「食べられる」支援を目指して～食欲不振・体重低下が進み「老衰」と診断された利用者に家族が決めた「限界」まで支援をした事例～」

- 発表を行うことをご利用者のご家族に同意を得た時に「完全にプライバシーがかけられるのであれば是非発表をしてください。このようなこと(管理栄養士の訪問等)は本当に大切なことだと思うので、このことを多くのケアマネジャーさんに知って学んでもらいたい」と言ってくれた。嬉しいと同時に大きな責任を担うことを感じ、その時のことを思い出しながら本日発表した。



社会福祉法人京都福祉サービス協会太秦事務所 竿山 眞佐子 氏  
「病院から在宅へ切れ目のない支援～医療ソーシャルワーカーとの連携について～」

- 準備が大変であったが勉強になった。ケースを振り返り、自分自身の気持ちにつながった。

社会福祉法人福知山シルバー土ニココノハウス 森本 敬子 氏  
「居宅の現場から地域医療構想の実現につなぐ～がん末期事例から得た課題を地域の環境整備へ～」

- 主任介護支援専門員として実感した地域の環境を整備したいという想いで発表した。また地域に持ち帰る“本気度”を示す為にも発表した。実現できる為に今後も地域で努力していきます。福知山の旋風になりたいです。

ヴィア山科居宅介護支援事業所 清水焼団地センター 糸田 大輔 氏  
「居宅介護支援事業所が関わる居場所作り～地域に根ざした地道な活動「山科・清水焼団地センター みちくさの家」～」

- 人前で発表するのは非常に苦手であり発表するまでの待ち時間が非常に疲れた。発表中はゆっくり話そうとしたが待ち時間を経過してしまい申し訳ない気持ち。でも発表できてよかった。

◆【近畿大会】  
第16回近畿介護支援専門員  
研究大会兵庫大会  
※参加申込締切 平成29年2月17日(金)  
日時：平成29年3月11日(土)・12日(日)  
会場：ANAクラウンプラザホテル神戸

◆【全国大会】  
第11回日本介護支援専門員協会  
全国大会in石川  
日時：平成29年8月26日(土)・27日(日)  
会場：石川県立音楽堂ほか

◆【京都大会】  
第6回京都府介護支援専門員研究大会  
日時：平成29年10月28日(土)  
会場：メルパルク京都(予定)

◆日本ケアマネジメント学会  
第16回研究大会(名古屋)  
※学会会員のみ  
日時：平成29年6月14日(水)～16日(金)

研究発表することで、自らの経験や知識を整理し再確認する機会が得られます。そして、利用者理解や考え方の共有がはかれたり、他事業所の取り組みを知ることで実践力・質の向上・スキルアップにつながります。発表しようか迷っている人、キャリアのステップアップをしたい人、自分の経験や職場の取り組みを色々な人に伝えたい人、研究大会でぜひ研究発表をしてみませんか？

## 公益社団法人京都府介護支援専門員会 平成28年度ブロック委員総会

平成28年9月10日(土)14時30分から登録会館にて公益社団法人京都府介護支援専門員会平成28年度ブロック委員総会が開催されました。



委員会活動についての説明後にブロック委員の皆様が活動報告や取り組みの特色を紹介されました。他ブロックの活動に刺激を受け、良いところを取り入れてさらなるブロック活動の活性化が期待できる報告会になりました。

また、熊本地震の支援活動に京都府DWAT(京都府災害派遣福祉チーム)第1班として当会から参加された山城・相楽ブロック理事の村上晶之氏による報告がありました。



たくさんの支援者やボランティアが混在したことや、その場の暗黙ルールや約束事に苦勞しながらもできるだけ支援活動を懸命にしてこられた報告でした。

私たちはいつ災害にみまわれるかわかりません。地域との連携のみならず、支援を受ける立場での連携に関してもブロック活動の方向性を示唆するものと思われます。

ご多忙の中ご参加いただきましたブロック委員の皆様ありがとうございました。



(編集委員長 西村 篤)

## ブロック活動報告 中丹ブロック

平成28年7月10日(日)、舞鶴西駅交流センターにて、京都府介護支援専門員会常任理事の川添チエミ氏をお招きして中丹ブロック研修会を開催しました。「課題整理総括表の使い方について 地域ケア会議での活用」というテーマで、課題整理総括表の目的、活用における留意点、記入方法等について(冷房が効かないというアクシデントで汗びっしょりになりながら)34名が学びを深めあいました。また、今回の研修で京都府介護支援専門員会に9名の方が入会されました。

「課題整理総括表」…。ここ数年の私自身の課題でもあります。毎年、川添先生の「課題整理総括表」に関する研修会に参加している私は、研修受講後は「よし、やるぞ!」とチャレンジするのですが、いつも途中で挫折し、つい

アセスメント→ケアプランへと進んでしまうことを繰り返していました。今回の研修を受け、挫折の理由が課題整理総括表の記入の仕方に慣れていないからではなくアセスメントがしっかりできていないことであると気づきました。

今回舞鶴市で研修会を企画し皆様が研修に臨まれる姿勢を拝見していると、北部のケアマネジャーを対象とした研修が今よりも多く北部で開催されることが望ましいと感じました。今後も皆様のご意見をお聞きしながら、学びあい、高めあえる研修会を企画していきたいと考えます。

(中丹ブロック委員 今中 智子)

## 京都市北西ブロック・京都市北東ブロック

京都市北西・北東ブロックは、平成28年10月26日(水)に合同研修会を開催しました。昨年度の近畿介護支援専門員研究大会京都大会で特別講演していただいた、辰馬雅子氏をお招きして、「京料理のこだわり おもてなしの心～京料理『せんしょう』の女将に学ぶ～」をテーマとして38名が参加しました。

ケアマネジャーと京料理店の女将さんでは業種は異なりますが、接客のプロとしての強いこだわりを持ち、経営者としての事業所管理や、職人さんの業務仕分け、アルバイトの育成等、幅広い知識を活かしながら、経営努力を続けてこられたお話を伺いました。

お客さんの生きてきた時代背景を知ることから始める、というお話では、まさにケアマネジャーのアセスメントの視点に通じるものがあり、各時代での世の中の出来事や暮らし方、家族の在り方等の変遷を分かりやすくまとめ、各世代の人々が何を大切にしてきたか？を知ることが大切であり、時代によって「常識」が変わっていくものとお話いただきました。また、食事をコミュニケーションの一つとして考え、お客さんに満

足いただく食事と時間を過ごしてもらうため、「おもてなし」の基本についてお話いただきました。「おもてなし」とは、相手に対して「裏も表もなし」から来ており、正直な考え方や立ち位置であると学びました。

ケアマネジャーの仕事に置き換えた時、利用者さんの現在の生活課題にとらわれすぎず、その方が生きてこられた時代背景と過去の人生に対し、どこまで想いを馳せられるか？基本的な姿勢を振り返ることができる研修会になりました。

(理事 塚田 聡)

### 辰馬雅子氏 プロフィール

京料理せんしょう/日本料理アカデミー正会員  
灘の造り酒屋の家庭で育ち小さい頃から伝統文化の良さを学ぶ。母方が京都ということもあり京都に縁があり、日中は大学で管理栄養士を習得し、夜間は板前となるべく学ぶ学生生活を過ごす。12年修行したあと、日本料理店を生業とするようになる。  
これからの時代とともに生きる京料理店の真髄を深く追求し、皆に広め、継承できたらと願われている。



## 京都市南東ブロック

京都市南東ブロックは、東山区・山科区・下京区の3行政区を範囲とし、約180名で構成されています。各行政区3名のブロック委員と理事1名で京都府介護支援専門員会と連携しながら、研修会等の企画・運営を行っています。

それぞれの行政区で地域特性があり、各行政区でも会員間の交流機会がなかなかない状態でブロック研修等への参加者増加により、ブロック内の介護支援専門員の交流を広げていきたいと思っています。

ブロック研修ですが、平成27年度は「地域の回復期リハビリ病院との連携について」と題し、講義とグループワークの2部構成で病院のリハビリ担当者と直接連携を深める機会を持ちました。平成28年度は「災害に負けないケアマネジャーを目指す～経験を活かして～」と題し、京都府介護支援専門員会常任理事の柴田崇晴氏と災害対策委員の中平克樹氏をお招きし、講義とグループワークの2部構成で学びました。

高齢者を支援するとき、地域の災害時の備えや連携のとり方についての準備は欠かせないもの。実際の災害時支援の経験について学び、災害時に備えどのような準備が必要なのか、具体的な災害を想定しての連携のとり方を考える機会となりました。

道路と鉄道が行き交う山科区、神社、寺院と観光資源の多い東山区、京都駅という京都の玄関口がある下京区、万一災害が発生した際は、いずれの行政区も地域住民だけでなく、いわゆる「帰宅困難者」が発生してくることが予想されます。その中でも介護支援専門員は災害時支援を高齢者に行えるようにしないといけないものだと思います。

今後も、地域特性が違う行政区ですが、ブロック委員が一つとなり、地域の介護支援専門として質の向上を目指していきたいと思っています。

(京都市南東ブロック委員 糸田 大輔)

## 事務局からのお知らせ

### ■平成28年度会費納入のご案内

#### ◇会費納入のご案内【口座振替】が同封されていた方へ

ご指定の金融機関より、平成29年2月27日(月)に引き落としさせていただきます。同封の「会費納入のご案内」【口座振替】で金額をご確認のうえ、振替日の前日までにご指定の口座にご準備いただきますようお願いいたします。

#### ◇会費納入のご案内【振込】が同封されていた方へ

平成28年11月30日現在、「預金口座振替依頼書」のご提出がありませんでした。「会費納入のご案内」【振込】をご確認のうえ、平成29年3月15日(水)までに当会口座にお振込みいただきますようお願いいたします。

## 編集後記

あけましておめでとうございます。本年もなにとぞよろしくお願いいたします。

新聞報道で、「混合介護 東京に特区で解禁を検討」を読みました。介護給付によるサービスと、自費サービスを同時に提供することを可能にする内容ですが、従来、保険内・外のサービスを明確に分けるように強く規制されてきたものが「利用者の利便性」「新たなビジネスになるのでは」「介護職の賃金アップにつながるのでは」と公正取引委員会が9月に出したレポートをもとに「規制改革推進会議」で話し合いが進んでいます。

ケアマネジャーの仕事の中で「同居家族への支援はできません」など、「できないこと」として答えることが多かった部分であり、「困っている部分なのに対応してもらえない」と批判されてきた一面でもあります。

利用する高齢者・家族にとって分かりやすいことが介護保険の「利便性」では？ と思いますが、制度改定ごとに複雑になっていくばかりです。制度の変更や見直しを、利用者や地域の高齢者・家族に、わかりやすく、正しく伝えられることも、ケアマネジャーに求められる重要な能力ではないかと考えます。

(理事 塚田 聡)

### 京都ケアマネ・ポート53号

2017年1月1日発行

発行人：井上 基

編集委員長：西村 篤

広報部編集委員：柴田 崇晴 塚田 聡 村上 晶之 佐藤 弓子 中嶋 優 松本 善則 堀田 裕

発行元 公益社団法人 京都府介護支援専門員会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375 京都府立総合社会福祉会館7階

TEL. 075-254-3970 FAX. 075-254-3971

E-mail: info@kyotocm.jp URL: http://kyotocm.jp/

京都銀行 府庁前支店 普通口座 4151049 シャ) キョウトファイゴシエンセンモンインカイ